

② モバイルспейの準備と流れ、当日・術後のご注意事項

●事前準備

当日朝までに手術対象猫を捕獲してください

※ただし、捕獲器内にいる時間が極力短くなるよう捕獲は前日夕方～当日朝に行ってください。

※やむを得ず1～2日程度捕獲器内で管理する場合、排泄物で猫の身体が汚れないよう「食餌量を通常の半分程度に抑えること」「排泄物の処理をすること」を徹底してください。身体が汚れると、手術進行に支障をきたし、また術中・術後に感染症のリスクが上がったり、傷口が化膿する恐れがあります。なお、水は脱水防止のため適宜与えてください。

●手術当日

1.手術対象猫はいずれかの状態で待機させてください

- ・「捕獲器に入った状態」
- ・「洗濯ネット（粗目・60×60サイズ・ファスナーチャック式）に猫を入れた上で、キャリーケースに入った状態」

※いずれも入れ物1つにつき猫1匹を入れてください

※動物を入れることを目的としたもの以外の容器（段ボール、トートバック、手製の入れ物等）はお断りいたします。

※猫用より大きいサイズのキャリーケースのご使用はご遠慮ください

※捕獲器の中に水皿や毛布類は入れないでください

2.当日朝から絶食してください（嘔吐防止のため）

※ただし、生後半年未満の子猫の場合は低血糖予防のため、当日朝に、消化の良いウェットフードを2，3口程度与えてください。

※当日早朝に捕獲する場合、与えるフードの量は最小限に留めてください。

●手術後

1.抜糸について

オス/メスともに抜糸の必要はありません。

2.食餌について

手術後、約3時間経過しましたら食餌を与えてください。手術当日は麻酔の影響による嘔吐を防ぐため、消化の良いウエットフード(缶詰やパウチなど)を与えてください。翌日以降は食欲が戻っていればカリカリフードを与えていただいて結構です。

3.温度管理について

麻酔後はからだの体温調節機能が不安定になりますので、各季節に応じて快適な温度で休息できるよう管理してください。夏場は熱中症や暑さによる脱水症状などが起こりやすいため、直射日光の当たらない、風通しの良い場所で過ごさせてください。10月～4月は朝晩冷え込みます。体が冷えることで体調不良(食欲不振、下痢、嘔吐など)、最悪の場合、低体温症により死に至る可能性もありますので、手術後は十分暖かくしてください。

4.安静日数について

手術後、オスメスともに最低一晩は先述の環境にて様子を見てください。(捕獲器内、もしくは大きさにゆとりのあるケージ内など)※墮胎手術をしたメス猫は、墮胎により多量の血液を失う上、通常の不妊手術と比べ傷口が大きくなっています。二晩程度は捕獲器内などで安静にさせて、手術後管理をより注意深くおこなってください。

5.ストレスサインについて

手術後管理中、全く飲食をしない・排泄を我慢している場合は環境変化によるストレスが原因である可能性があります。その場合は上記の安静日数内であっても、天候や気温を考慮した上で速やかにリリースをするなど、猫の負担が少ない方法を選択してください。※元気がない(ぐったりしている・ふらつきがある)、下痢や嘔吐がある場合などは、リリースをする前に手術を行ったクリニックへご相談ください。

6.メスの手術後について

メスの不妊手術後、切開したあたりがデブソのように膨らむことがあります。これは、皮下脂肪を縫合したことによる自然な生体反応であり、1カ月程度で治まってきます。ただし、傷周囲が赤くなっている・熱感がある・膿が出ている場合は炎症を起こしている可能性がありますので、手術を行ったクリニックへご連絡ください。

7.リリースについて

猫を屋外の元に居た場所へリリースする際は、勢いよく飛び出し交通事故に遭ってしまう危険を避けるため、車の往来が無い方向に向けて捕獲器の扉を開けてください。